



第2回

令和7年度進路説明会

入試日程

私立

推薦※…1月中旬旬

一般 …2月初旬

都立

推薦 …1月26日・27日

一次・前期 …2月21日

一般入試（学力に基づく入試）

※私立高校では一部、推薦入試を行わない学校もある。

都立高校 主なポイント

都立ポイント①

学科を改編する高校

- ・六郷工科高校 全日制課程（ものづくりエ学科）

募集を開始する高校

- ・立川緑高校 定時制課程（チャレンジスクール・総合学科）

募集を停止する高校

- ・立川高校 定時制課程（普通科）

※正式決定は令和6年10月頃

都立ポイント②

男女別定員制の廃止

令和6年度入試より男女別の定員は廃止。

原則すべて男女合同で選抜を行う。

※ジェンダー平等の観点から、令和4年度入試より段階的に緩和されてきた。

文化・スポーツ等特別推薦では男女別に定員を定める。

都立ポイント③

追検査について

☆分割後期・第二次募集と同日程。

- ・インフルエンザ等の学校感染症に罹患するなどし、第一次募集で出願した都立高校を受検することができなかった受検者が対象。

※月経随伴症状、痴漢被害等も対象となる。

※第一志望とした科（分野）に限り出願できる。追検査に出願した場合、志願変更はできない。

※分割募集実施校では実施しない。

都立ポイント④

受検上の配慮

- ・これまでの「特別措置」から「受検上の配慮」に名称変更。

※障害のある受検者や日本語指導を必要とする生徒等を対象するもの。事前の申請が必要。

都立**推薦**入試

令和7年1月26日(日)

27日(月)

都立推薦入試①

推薦入試の種類

一般推薦

文化・スポーツ等特別推薦

理数等特別推薦

都立推薦入試②

一般推薦

…個人面接、集団討論（必要と判断した高校）

小論文・作文、実技検査、学校が設定する検査※

※この中から一つ以上を実施

→これらの検査の得点と調査書点の総合成績で選考

都立推薦入試③

文化・スポーツ等特別推薦

…自校の教育活動の特色に合わせて募集される。

個人面接または集団面接、実技検査

※同じ学校の一般推薦にも**出願可能**。

その場合、受検料は2倍（一般推薦＋特別推薦）。

都立**推薦**入試④

文化・スポーツ等特別推薦

	令和7年度選抜	令和6年度選抜
実施校	90校	89校

※五日市、町田工科は令和7年度選抜における特別推薦を実施しない。

推薦書

※大会等での実績は**記入**しない。

※活動の実績等を証明する書類は**提出**しない。

都立推薦入試⑤

理数等特別推薦

…科学分野等の研究に関するレポート（出願の際提出）
についての口頭試問、個人面接および小論文

※一般推薦や文化・スポーツ等特別推薦には
出願できない

都立推薦入試⑥

個人面接

出願の動機・理由

興味・関心

規範意識・生活態度

自己PRカードの内容など

…これまでの経験を高校生活で
生かせるかが見られる

都立推薦入試⑦

個人面接

※個人面接の練習を兼ねて、校長先生・副校長先生との面接を行います。
(推薦入試を受けない人も全員。)

→なぜその学校に行きたいのか、自分の言葉で話せるようにしておきましょう。

都立推薦入試⑧

小論文・作文、集団討論

東京都教育委員会のホームページに、過去の
出題テーマが出ています。

都立推薦入試⑨

小論文の課題例

関東大震災の被害の原因について、資料から読み取り答える。

都立推薦入試⑩

作文のテーマ例

「他者と協力する」ということについて、あなたのこれまでの経験を具体的に挙げながら、あなたの考えを書き、それを本校での高校生活で、どのように生かしていくのか述べなさい。

都立推薦入試①①

集団討論のテーマ例

世界の人々に最も伝えたい日本の魅力は何ですか。

- ▶ コミュニケーション能力や協調性、思考力、判断力、表現力などを評価する。
- ▶ 「自分の考え・意見をしっかり持つこと」、
「相手の考えを理解したうえで、自分の考えを相手に伝えること」がポイント。

都立推薦入試⑫

応募資格

1. 都内在住※で、令和7年3月に中学校を卒業見込みの者
2. 志願する都立高校が**第一志望**であること
3. **大泉西中学校の推薦基準**を満たし、校長から推薦を受けた者

※都内在住で、都内の中学校に在学していて、入学後も引き続き都内に在住する

都立推薦入試⑬

注意事項

- ・ 推薦は**第一志望**のみ。合格したら**必ず入学**する。
- ・ **倍率**が非常に高い（全日制普通科全体で2.87倍）。
- ・ **結果発表から一次・分割前期出願までの期間が短い。**

※推薦合格発表 …1月31日（金）

→ 一次・分割前期出願 …2月 5日（水）まで。

都立**一般** (学力に基づく) 入試

一次・分割前期 2月21日 (金)

分割後期・二次 3月11日 (火)

定時制 3月27日 (水)

都立一般入試①

総合得点

1020点満点

= 学力検査の得点 + 調査書点

学力検査を実施しない教科は2倍

+ 英語スピーキングテスト得点

20点満点

都立一般入試②

		学力検査の教科	学力検査と調査書の比率
全日制	一次・分割前期	5教科(国・数・英・社・理) 芸術科・体育科… 3教科+実技	7 : 3 6 : 4
	二次・分割後期	3教科(国・数・英)	6 : 4
定時制	一次・分割前期	5教科の中から 3教科以上	7 : 3 または 6 : 4
	二次・分割後期		6 : 4 または 5 : 5

都立一般入試③

分割募集

あらかじめ、前期と後期に定員を分割して募集すること。

※令和7年度 分割募集の実施校は26校。

全日制 普通科18校、専門学科3校、定時制 5校
募集人員は10月下旬に発表予定。

第二次募集

第一次募集で定員に満たない場合に行う募集。

都立一般入試④

分割後期募集・第二次募集

注意点

一人でも多くの生徒の都立高校への進学を保障するため、既に国私立高校に入学手続きを終えている生徒は、以後の募集への出願を遠慮すること

都立一般入試⑤

学力検査問題の自校作成

第一次募集において、国・数・英の3教科をそれぞれの学校で作成する。社・理は共通問題。

全日制 10校 ※国際高校を除く

定時制 2校

※国際高校は英語のみ自校作成。

都立入試の出願手続き

手続き①

志願者の年齢

願書には令和7年3月31日現在の年齢を記入する
…基本的には全員「15歳」。
4月1日生まれの人と同じ。

出願の際の氏名

出願は住民票等の根拠に基づく氏名（本名）で行う。

手続き②

第一次募集・分割前期募集

出願手続

志願者個人がインターネットの登録サイトから出願。

※調査書等は中学校から各都立高校へ郵送。

合格発表

出願サイト上、校内掲示

手続き③

分割後期募集・第二次募集

出願手続

窓口に願書を持参。

志望校に複数の学科等の募集がある場合、学科等を越えて、志望の順位をつけることが可能。

合格発表

合否照会サイト、校内掲示

都立入試の得点開示

本人得点・学力検査における答案の開示請求

受付：	<u>不合格者</u>	推薦、一次・前期	3月 5日～
		後期・二次	3月 18日～
	<u>合格者</u>	全検査とも	5月 1日～

受付終了：合格者・不合格者とも 8月29日

交付期限： 交付日から3か月

私立入試の主なポイント

私立推薦入試

1月中旬 昨年度は1月22日から

入試相談：12月15日（日）

私立推薦入試①

応募資格

1. 令和7年3月に中学校を卒業見込みの者
2. 志望校が**第一志望**であること
3. **大泉西中学校の推薦基準**を満たし、校長から推薦を受けた者
4. 志望校の推薦基準を満たしていることが高校との「入試相談」で確認されている者

私立推薦入試②

試験内容

学科試験はないが必ず面接がある。

→個人面接が多い。

作文や適性検査を実施する学校もある。

※入試相談での確認後、辞退はできない。

私立一般入試

2月上旬

原則2月10日から

優遇を受ける場合、入試相談あり

12月15日

私立一般入試①

一般入試の種類

第一志望優遇

併願優遇（公立併願・公私併願）

いわゆるフリー受験

私立一般入試②

第一志望優遇

応募資格

1. 令和7年3月に中学校を卒業見込みの者
2. 志望校の基準に達しなかったが**第一志望**であること
3. 第一志望であることを中学校長が確認していること

※入試相談を利用することがほとんど。

※入試相談の後、辞退はできない。

私立一般入試③

第一志望優遇

試験内容

学科試験(国・数・英)と面接(個人)がほとんど。

私立一般入試④

併願優遇

応募資格

1. 令和7年3月に中学校を卒業見込みの者
2. 志望校の併願優遇基準を満たしていること
3. 上記2が「入試相談」で確認されている者

公立併願: 公立高校との併願のみ

公私併願: 公立高校+他の私立高校1校との併願

私立一般入試⑤

併願優遇

試験内容

学科試験(国・数・英)と面接(個人)がほとんど。

入学手続き

合格発表後、都立の第一次・分割前期の発表まで待つ学校が多い。

→併願優遇制度を利用して合格した場合、**都立一次・分割前期以降の募集には出願できない。**

私立一般入試⑥

併願優遇

併願校受験前に志望上位の高校に合格した場合、併願私立の出願・受験を辞退可能。

①都立推薦で第一志望都立に合格

→併願私立、第二志望私立を辞退できる。

②私立一般で第一志望私立に合格 ※公私

→併願私立を辞退できる。都立（第二志望）は受検しない。

③私立一般で第二志望私立に合格（第一志望は都立）※公私

→併願私立を辞退できる。

私立一般入試⑦

いわゆるフリー受験

確認事項

- ①併願優遇制度がある高校では、フリー受験での合格者が少ない場合がある。
- ②入学手続き金の納入時期は志望順位による。
- ③受験校数などに制限はないが、多く受けすぎるのは本人の負担が大きい。受験校を絞ることも必要。

まとめ

進路選択にあたって大切なこと

・学習面

授業にきちんと臨み、今の学習内容を理解すること

これまでの学習内容を復習し、苦手をなくすこと

過去問題等に取り組み、試験への対策をすること

・希望進路

家庭でよく相談すること

1. 本人、保護者の考えをすり合わせておく
2. 自分の受験(受検)したい学校の入試制度についてよく調べて確認する
3. 必ず一度は学校説明会に参加する

※私立高校では、入試相談よりも前に高校の基準をクリアしているか確認しておく必要がある。

説明会に参加していない場合、入試相談できないこともある。

・生活面

本番で実力を発揮するために、普段通りの生活を崩さず、『**平常心**』で臨むことが大切です。

直前になってあわてることのないように、**日頃の生活**を見直していきましょう。

- ・生活リズム
- ・身だしなみ、言葉遣い
- ・ルール、マナー